

○神学研究科 神学専攻

2021年度春学期

修了者なし

2021年度秋学期

- ・ ゼエヴ・ジャボティンスキーの連合国家に関する初期構想—1922年覚書に基づく—
- ・ 刷新と継承—Nostra aetateの歴史連続性について—
- ・ 初期キリスト教及びラビ・ユダヤ教における病気観の諸相—皮膚病の場合—
- ・ ヨハネによる福音書の「エゴ・エイミー」とキリスト論
- ・ ルカによる福音書17章20—21節におけるイエスの「神の国」理解
- ・  $\pi\iota\sigma\tau\epsilon\iota\varsigma$ の訳と日本語訳「信仰」—聖書翻訳の限界と可能性—  
※ギリシャ語部分は一部アルファベットに置き換えた
- ・ 構成主義からみたパウロの回心の定義——喪失と悲嘆における意味再構成の視点から——
- ・ マテオ・リッチの宣教活動とネットワーク —明朝末期におけるキリスト教拡大に関する考察—
- ・ ニジンスキーにおける神理解について
- ・ キリスト者の社会運動の継承に関する一考察  
—日本福音同盟（JEA）社会委員会の大嘗祭への反対運動を題材に—
- ・ 被差別部落の解放をめぐる神学的考察—その歴史と実践を踏まえて—
- ・ 波多野精一における「愛」の神についての考察
- ・ ピエール・ベールにおける改革派思想に基づく寛容論—実践神学的—考察—
- ・ 現代の教会学校教育における宣教の働き—不登校支援における教育機関との連携を通して—
- ・ エルンスト・トレルチにおける複数性理解についての—考察—メノナイト派を中心に—
- ・ コルネリウス物語における聖霊の働きの意義について—なぜ水の洗礼より先に聖霊が注がれたのか—

2022年度春学期

- ・ 修了者なし

2022年度秋学期

- ・ サムエル記下14章1—20節におけるsmart womanについての—考察—  
※ヘブライ語部分は一部アルファベットに置き換えた
- ・ 十二イマーム派の神学者シャイフ・ムフィードにおける最益説についての考察—最益説における一個人とそれ以外の他の人々の位置づけ—
- ・ 織田檜次の信仰と活動—自叙伝に見る朝鮮伝道の歴史—

- ・ シモーヌ・ヴェイユの「隣人愛」から考察するケアの倫理
- ・ 現代日本の死生観に関する一考察—葬送の変化を中心に—
- ・ 臨床宗教師の役割とスピリチュアルケアの必要性について—人生の終末期における宗教間対話を通じて—
- ・ 牧師疲弊についての研究
- ・ ヨゼフ・ルクル・フロマートカの無神論理解—実践を基盤としたキリスト論についての一考察—
- ・ グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた牧師のオンライン礼拝への取り組みに関する研究